

山口博愛病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人博愛会 山口博愛病院
開設主体	医療法人 博愛会
所在地	山口県防府市お茶屋町2番12号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	98床 一般病棟 53床、療養病床 45床 急性期 53床、慢性期 45床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	98床 一般病棟 53床、療養病床 45床 急性期 53床、慢性期 45床
診療科目	内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、血液内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、整形外科、皮膚科、アレルギー科、放射線科
職員数	117名
・ 医師	4名
・ 看護職員	61名
・ 看護補助者	17名
・ 専門職	21名
・ 事務職	14名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 (H29年度)

一般病棟13対1入院基本料 (地域一般入院料2) 平均在院日数19.7 病床稼働率92.5%

療養病棟20対1入院基本料 (療養病棟入院料1) 平均在院日数142.3 病床稼働率92.3%

② 自施設の課題

- ・入院患者の在宅復帰率をさらに上げること。
- ・かかりつけ医としての役割を在宅医療まで拡大するにあたり、医師・看護師の増員が課題である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①~②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

・地域における、安心して任せられるかかりつけ医機能を有する病院を目指している。すなわち、別記載の表2,3に示すように、当院が直接かかわる在宅機能を充実させるとともに急変時（特に夜間・休日）に、受診を受け入れ入院の必要が有る時にはすぐに対応する体制を整えておく。このことは、安心したかかりつけ医機能を有する病院として非常に重要である。

- ・へき地医療（離島・野島）の提供（詳細は別紙）

② 今後持つべき病床機能

・上記のごとく、当院は急性期の病棟53床、療養病棟45床であるが、地域の患者さんのニーズに対応する病床機能としては現在の形を維持したい。ただ、急な入院に対応するには、急性期の病床数を若干増床することが望ましい。

- ・緩和ケア病床について検討していきたい。

③ その他見直すべき点

・見直すというよりも、より在宅ケアが充実する内部の体制（後述）をさらに充実させることが重要であるとともに、当院では対応が困難な脳卒中や急性の心血管心疾患、骨折などの整形外科疾患などの急性期の医療に対応するため、高度急性期病院との密接な関わりを構築してゆきたいと考えている

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	53		53
回復期			
慢性期	45		45
休棟等			
(合計)	98		98
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

<ul style="list-style-type: none"> ・別紙にて ・当院における地域包括支援の実際

【4. その他】（自由記載）

当院における地域包括支援の実況

各医療機関が、厚生労働省の推し進める一ときどき入院、ほぼ在宅一を目指して、舵をきっている現状の中、当院の患者さんの半数は、山口県立総合医療センターなどの急性期の治療を終えた患者さん（70-90歳のご高齢の患者さんが大部分）であり、医療の重症度が高い患者さんが少なくありません（よって、表1に示すごとく、当院では、平成29年1月から平成30年8月までの間に、残念ながら21%の方が亡くなられています。）よって、単純な方法では、上記のような在宅医療に移行していくには困難な患者さんが当院には多数います。ただ、当院では、以下の取り組みにより、表1&図1に示すように、それでも全体の約4割が在宅に復帰しており、死亡例や転院例を除き、かつ、在宅に準ずる施設系を含めると、約86%（表1に示す64/64+10=86.648...）が帰っていることとなります。

在宅復帰のためには、医療と介護の両方の視点から患者さんや家族をバックアップすることが重要になってきます。当法人では、「老人保健施設 はくあい」、「居宅介護支援事業所 白雲荘」、在宅介護支援センター（ケアマネージャー）、訪問看護ステーション（訪問リハビリ）、ヘルパーステーション、訪問診療（往診、看取り）のしくみを法人内に整備してきました。表2に、平成27~29年の各部門の在宅や他の施設への（看取りを含めた）訪問件数を記載しました。

当法人では、さまざまなスペシャリストが密接に繋がり、患者さん一人一人のさまざまな状況を想定したプランを策定していきます。独居の患者さんについては、民生委員など地域のネットワークとも積極的に連携し、安心して自宅で過ごすための仕組みを構築しています（地域との交流をさらに推進するために、2018年4月から、企業内保育所を開設するとともに、同じ建物内に地域交流センターを開設しました）。

つまり、新たな患者さんが入院した時点で、地域連携室スタッフと退院調整看護師を中心に、前述の各部門のスタッフが必ず、情報を確認して共有します。法人内にこのような各部門があると、日常的にスタッフの行き来があり、ほぼ毎日顔をあわせる機会があることから、患者さんが入院してすぐの段階から「あの患者さんが自宅に帰る際には何が必要か？」などの会話が交わされています。いわば、入院時から退院まで、切れ目のない支援が続くわけです。入院後には院内カンファレンスで、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、リハビリスタッフが集まり、必要に応じて、ケアマネージャーと一緒に、ご自宅まで訪問して退院までのプランを煮詰めます。もちろん、退院時のカンファレンスもしっかり多職種で話し合っています。退院時には、プランを変更して、対応しなければならないケースも多くあるからです。

こうした在宅へむけての取り組みは多くの医療機関でも力を入れていることだと思います。ただ、退院支援加算や総合評価加算の加算目的のカンファレンスだとなかなか中身を伴わないというのが実感です。患者さんの生活環境や地域の実情、病院の機能を踏まえて、制度を咀嚼し、取捨選択して、取り組みに落とし込んでいく。患者さんやご家族が満足することが第一で、結果的に加算を得ることが本質だと思います。

当法人では、このように、在宅でできるだけ長く過ごすための医療、介護の支援を実施するにあたり、患者さんやご家族に「安心感」を提供することが不可欠な要素と考えています。つまり、退院後も、急変時には、各部門のスタッフがすぐに対応し、入院が必要な場合は、直接の受診（救急車を含む）かスタッフを通じての迅速な入院対応を行っています。在宅だけでなく、医療施設の併設がない施設も含めて、表3に示すように、休日や夜間を通じて、医療的な対応ができるバックアップ体制を敷いています。また、近年、施設入所の患者さんは、認知症を伴う肢体不自由な方が多く、一般の急性期の病院での救急対応が困難なケースが多く見受けられます。このようなケースに対しても、当法人の取り組みが生かせると考え、施設と連携して情報交換を行い、緊急時対応をすることにより、安心して、できるだけ長く施設での生活ができるように、バックアップしています。さらに、そのバックアップを強固にするためにも、当法人では、認知症の専門外来も開設しています。

僻地医療（離島、野島）の取り組み

1986年、防府市の南東14.8kmの海上に浮かぶ「野島」への医師、看護師、事務スタッフの派遣を開始しました。島の診療所にいた医師が引退したため、市の派遣要請を受けました。当院の常勤医師4名が交代で診療にあたっています。三田尻港と野島を結ぶ定期便は1日4往復。片道所要時間30分です。海は、夏は比較的穏やかですが、冬は荒れる日が多く、そんな日は、島に向かう船も随分揺れます。島の人々が船に乗って、当院に受診される場合もあれば、急な治療を要する場合は、救急艇の受け入れもしています。現在、野島は、76世帯、105人が暮らしていますが、わたしが院長に就任した2010年当時は、130人だったと記憶しています。診察する患者さんは以前に比べて、半数ほどに減りましたが、たとえ、数人でも、診療を必要としている患者さんがいる限り、派遣活動を続けていきます。また、島の人が入院するとなれば、本土にいる家族が集まってきます。高齢化が進んでいますから、今後は、このようなケースはもっと増えていくでしょう。野島の人々の家族の結びつきは、一般の方たちより強い傾向にあります。そこで、医療的に重症度の高いひとでも、家族を交えた、上述の当法人の連携部門とのカンファレンスの後、当法人のバックアップを受けながら、本土のこども宅での在宅医療や介護を受ける比率が一般の人々より高い傾向にあります。島の人口は確かに減少していますが、家族を含めた「野島にかかわりのある人々」との当院の縁はむしろ広がっていると言えるかもしれません。

予防医療と早期発見、メンタルケアの推奨

当院では、病気の早期発見と早期治療を目的に表4に示すように、健診、人間ドックをはじめ、メンタルケアの推進のため、平成28年からストレスチェックテストを始めています。このような機会を通じて、当院に馴染んで頂き、かかりつけ医として受診しやすい環境を整えています。

表1 退院先別集計 <平成29年1月～平成30年8月退院>

		平成29年												平成30年								合計	割合	種別割合
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
在宅系	自宅	20	19	19	15	24	19	28	12	24	20	17	18	21	15	18	16	16	21	21	25	388	38%	64%
	ショート	1	1	3	5	1	2	0	2	7	1	1	4	3	3	4	4	2	2	4	0	50	5%	
	ショート(はくあい)	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	9	1%	
	小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	1	2	1	1	0	2	0	1	1	12	1%	
	住宅型有料老人ホーム他	2	4	9	9	5	5	2	7	5	8	6	5	3	2	4	3	4	8	9	3	103	10%	
施設系	特別養護老人ホーム	2	5	7	0	8	7	6	8	4	1	8	4	5	0	3	9	5	2	7	4	95	9%	10%
	老人保健施設(はくあい)	3	4	8	3	4	5	2	4	5	4	6	6	6	9	4	4	4	3	2	5	91	9%	
	老人保健施設(他)	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	8	1%	
	転院	4	5	0	1	3	3	2	3	5	3	4	1	2	1	3	3	2	1	2	0	48	5%	
	死亡	8	11	12	11	9	9	13	9	14	5	13	12	13	12	11	14	14	7	6	14	217	21%	
総計		41	50	59	45	54	53	56	46	64	43	56	52	54	44	49	54	48	48	53	52	1021		

図1

退院先別件数
◇平成29年1月～平成30年8月退院◇

(人)

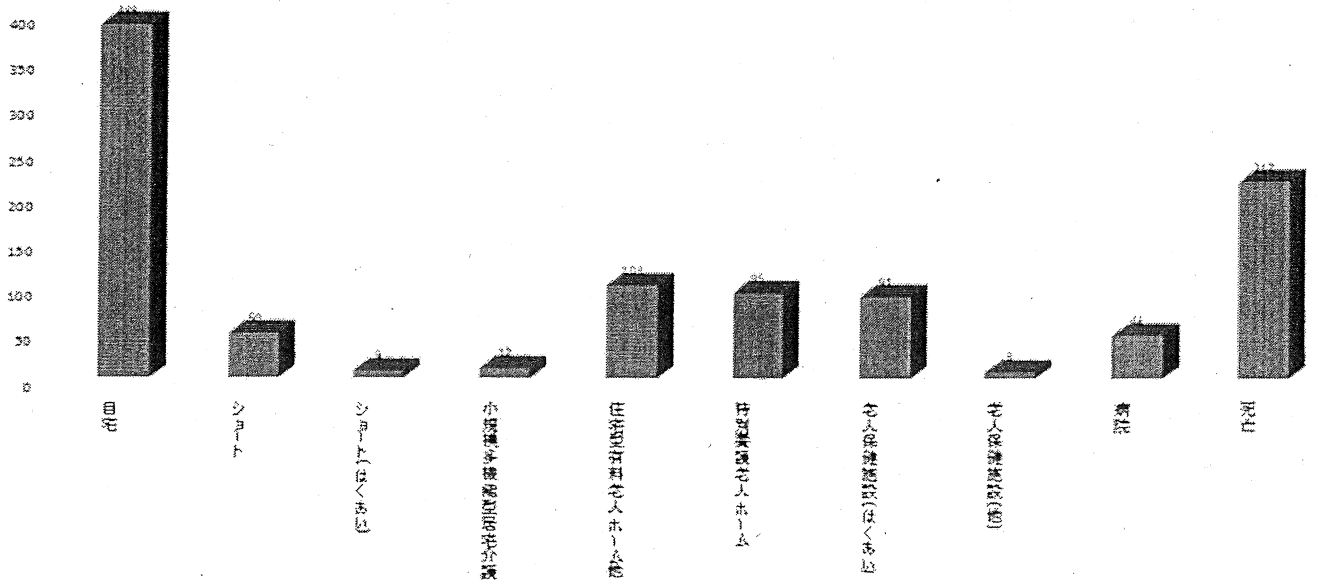


表2 在宅復帰のための取組

年	訪問診療のべ件数(往診を含む)	看取り件数	訪問看護指示件数	訪問介護延べ人数
H27年	323	6	411	989
H28年	462	12	560	1017
H29年	541	12	684	895

表3 休日・夜間受け入れ状況(H29年9月～H30年8月)

受診件数	救急搬送の件数	入院となった件数
150	40	62

表4 予防医療と早期発見、メンタルケア

年	健康診断(入社時・定期)	人間ドック	特殊業務健康診断	保健指導	ストレスチェック
H27年	1557	86	95	10	-
H28年	1346	128	75	7	619
H29年	1232	133	84	4	644

医療法人 康淳会 緑町三祐病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 康淳会 緑町三祐病院
開設主体	医療法人 康淳会
所在地	防府市緑町1丁目5番29号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	86床 一般病床 32床、療養病床 54床 急性期 17床、回復期 15床、慢性期 54床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	86床 一般病床 32床、療養病床 54床 急性期 17床、回復期 15床、慢性期 54床
診療科目	内科、外科、整形外科、胃腸内科、眼科、リハビリテーション科、 リウマチ科、皮膚科、放射線科
職員数	72名
・ 医師	3名
・ 看護職員	39名
・ 専門職	20名
・ 事務職員	10名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟 10:1入院基本料 地域包括ケア病床管理料

平均在院日数 12.7日 病床稼働率 95.0%

包括在宅退院率 87.4%

療養病棟 病床稼働率 99.2%

特徴 2次救急臨番病院

② 自施設の課題

・在宅医療の検討

療養病棟は引き続き医療区分2、3の患者を積極的に受け入れていく。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域の2次救急病院として、救急患者の受入を行うと共に、
後方支援病院として回復機能と、長期療養機能を担う。

② 今後持つべき病床機能

- ・現在の状況を維持し、質の向上を目指す。

③ その他見直すべき点

- ・在宅医療の検討。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	17		17
回復期	15		15
慢性期	54		54
休棟等			
(合計)	86		86
介護保険施設へ移行予定	—		0
うち、介護医療院	—		0

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

松本外科病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 社団 松友会 松本外科病院
開設主体	医療法人 社団 松友会
所在地	山口県防府市天神2丁目1番44号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	80床 一般病床 80床 急性期 36床、回復期 44床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	80床 一般病床 80床 急性期 36床、回復期 44床
診療科目	内科、呼吸器科、神経内科、胃腸科、リウマチ科、外科、 整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、 肛門科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科
職員数	116名
・ 医師	3名 (他非常勤: 15名)
・ 看護職員	67名
・ 専門職	15名
・ 事務職員	9名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料：急性期一般入院基本料 6

地域包括ケア病棟入院料 2

平均在院日数：15日、病床稼働率：99.6%

② 自施設の課題

- ・ 回復期病床から自宅、あるいは施設への退院が難しい患者もおり、こういった患者が病床を占有することにより、救急車の受入を制限せざるを得ない状況が発生している。
- ・ 地域で不足している時間外の小児患者の受入体制について、地域の病院と連携して対応できないか検討する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 5病院での救急輪番病院の一角として、今後も救急車の受入体制を維持していく。
- ・ 地域における回復期機能の一旦を担う。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の急性期病床は、救急輪番病院として適正病床数を検討しながら維持していく。
- ・ 急性期の病床数の適正化に合わせ、回復期病床の適正病床数を検討していく。

③ その他見直すべき点

- ・ 救急車の受入を優先するため、空き病床数に余裕がない状況が多いので、退院先の確保等により空き病床を確保する必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	36		36
回復期	44		44
慢性期			
休棟等			
(合計)	80		80
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

山口病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	山口病院
開設主体	医療法人
所在地	山口県山口市駅通り2丁目10番7号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	79床 療養病床 慢性期
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	79床 療養病床79床 慢性期79床
診療科目	内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科・呼吸器科 胃腸科・循環器科・皮膚泌尿器科・こう門科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	106名 6名 看護師(准)36名 介護職員31名 15名 18名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

※診療実績等を記入

届出入院基本料 医療療養病床入院基本料 I 51床

介護療養病床 28床

平均在院日数265日、病床稼働率 99.6%

特徴 長期入院療養の患者さんが主

② 自施設の課題

※地域の課題（将来の医療需要の減少、地域で不足している機能等）を踏まえた、自施設の持つ課題を記入

- ・ 地域の医療需要の減少が見込まれること、高齢化のため入院期間が長期になる。
症状の重い患者を受入れたいがベッドが空かない。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

長期で重症度（人工呼吸器等装着）の患者さんを（急性期病院等から）受入れを行う。

② 今後持つべき病床機能

今後も慢性期の療養病床を維持

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	79床		79床
休棟等			
(合計)	79床		79床
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

柴田病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団水生会 柴田病院
開設主体	医療法人社団水生会
所在地	山口市大内矢田北五丁目11番21号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床 40床 地域包括ケア病床 20床 回復期 60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床 40床 地域包括ケア病床 20床 回復期 60床
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、内分泌内科、神経内科、 外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科 放射線科、麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	131名 常勤 4名 非常勤 8名 64名 24名 31名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 地域一般入院料・1、地域包括ケア入院医療管理料・2

平均在院日数 19.4日 病床稼働率 97%

特徴 4機能のうち回復期が中心

② 自施設の課題

- ・サブアキュート機能の充実を図るべく、救急体制の強化が必要
- ・在宅支援療養病院への届出を満たすための医師の確保が必要
- ・在宅復帰後のサポートや連携強化、訪問系サービスの機能強化が必要

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①~②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域における医療ニーズ（救急・リハビリ・看取り）に対応し地域包括ケアシステムの構築や充実に取り組む

② 今後持つべき病床機能

現在13対1(40床)の急性期・慢性期を担う病床を平均在院日数、人員配置、稼働率を検討しながら地域包括ケア病床への転換を検討する。

③ その他見直すべき点

現在、地域包括ケア病床が20床であるため増床を検討したい。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	60		60
慢性期			
休棟等			
(合計)	60		60
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	地域包括ケア病床転換に向けた準備	住宅型低価格有料の建設 地域包括ケアシステム構築充実し一翼を担う
2020	13対1一般病床を地域包括ケア病床に10床 転換	
2021	全床を地域包括ケア病床に転換	

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率 60床 (90%) 54床以上 ・ 病床改装 10床分 50万円×10床分=500万円 (基金を活用)
--

【4. その他】(自由記載)

基金の活用によって地域包括ケア病床の増床を検討したい。

佐々木外科病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団曙会 佐々木外科病院
開設主体	医療法人社団曙会
所在地	山口市泉都町9番13号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	54床 一般54床 急性期44床、回復期(地域包括ケア)10床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	54床 一般54床 急性期44床、回復期(地域包括ケア)10床
診療科目	外科、内科、消化器外科、消化器内科、乳腺外科、肛門外科、 整形外科、リウマチ科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員その他	158名 15名 67名 33名 43名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

一般病棟7対1入院基本料（急性期一般入院料1）、地域包括ケア入院医療管理料1
平均在院日数15日、病床稼働率80.6%
開放型病院（開放病床6床）

② 自施設の課題

近隣等の高度急性期病院・急性期病院（山口県立総合医療センター、済生会山口総合病院、山口赤十字病院、山口大学医学部附属病院）に対するポストアキュートとしての連携体制の強化、開放病床を活用して近隣医療機関に対するサブアキュートという役割の維持と継続、今年度病床転換した在宅復帰のための地域包括ケア病床の安定活用

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・一次救急医療機関としての体制を維持する。
- ・現状のポストアキュートとしての一般急性期44床、それに含まれるサブアキュートとしての開放病床6床の体制を維持する。
- ・高度急性期・急性期病院と在宅をつなぐ回復期（地域包括ケア病床）の体制を強化し、在宅復帰を推進安定化を図る。
- ・予防医療の充実化として、特定健診・保健指導の効果的な実施を推進する。

② 今後持つべき病床機能

- ・現状体制を維持する。

③ その他見直すべき点

- ・病院経営の側面から急性期一般入院料1の算定体制は必須であり、そのためには患者の重症度、医療・看護必要度を鑑みながら、適切な病床運営を検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	4 4		4 4
回復期	1 0		1 0
慢性期			
休棟等			
(合計)	5 4		5 4
介護保険施設へ移行予定	-		
うち、介護医療院	-		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

・医療提供に関する項目（平均在院日数、病床稼働率、紹介率、在宅復帰率ほか）

【4. その他】（自由記載）

ICTなどの活用した地域医療ネットワークシステムの推進を図り、地域完結型医療体制の構築に努める。また、病病連携、病診連携の強化を行うための、地域の中核医療機関のリーダーシップを期待したい。
--

林病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	林病院
開設主体	医療法人 清仁会（社団）
所在地	山口市小郡下郷751番地4
許可病床数	
（病床の種別）	一般病床20床 療養病床30床
（病床機能別）	急性期20床 慢性期30床
稼働病床数	50床
（病床の種別）	一般病床20床 療養病床30床
（病床機能別）	急性期20床 慢性期30床
診療科目	内科 循環器内科 消化器内科 神経内科 外科 消化器外科 肛門外科 整形外科 リハビリテーション科 放射線科 内視鏡内科
職員数	
・ 医師	10名（常勤4名 非常勤換算1.41名）
・ 看護職員	41名（常勤40名 非常勤換算0.5名）
・ 専門職	11名（常勤8名 非常勤換算1.7名）
・ 事務職員	12名（常勤9名 非常勤換算2名）

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

(2018年4・5・6月の実績)

届出入院料 一般病棟10対1入院基本料 (8/1～急性期入院料6)

平均在院日数16.3日 病床稼働率91.1%

特徴 当院の最初の入院病棟で積極的に治療を行う。

届出入院料 療養病棟入院基本料 入院料1

平均在院日数452.3日 病床稼働率99.4%

特徴 医療が必要で(喀痰吸引、人工呼吸、難病等の患者さん)家庭にそれに対応できる十分な介護力のない長期療養の患者さんの受け皿。

② 自施設の課題

一般病棟の場合、最近無床診療所が増え、地域支援病院の機能を果す為にも又、在宅で療養される方の急変(訪問看護よりの連絡など)に対応する為、20床くらいの病床は必要であるが、時に病床が満床で受け入れないことがある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域における回復期機能を担う為、リハビリテーションを強化した地域包括病床について検討する余地があると思っている。

② 今後持つべき病床機能

急性期・慢性期病床の数は今のところ妥当と思われる。

リハビリテーションを強化して在宅への復帰が叶うよう常に努力していく。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	20		20
回復期			
慢性期	30		30
休棟等			
(合計)	50		50
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

医療提供に関する項目（病床稼働率 一般96.4% 療養99.1%）直近1年間 経営に関する項目（人件費率 57.9% 研修費率0.3%）30年3月決算
--

【4. その他】（自由記載）

--

丘病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 丘病院
開設主体	医療法人 丘病院
所在地	山口市河原町 2-14
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	37 床 療養病床 37 床 慢性期 37 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	37 床 療養病床 37 床 慢性期 37 床
診療科目	整形外科、リハビリテーション科、内科、外科 リウマチ科、皮膚科、麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	54 名 8 名 (常勤 1 名、非常勤 7 名) 13 名 28 名 5 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟入院基本料
平均在院日数 189.1日 病床満床率 97.8%

② 自施設の課題

人口減少が顕著であり地域の医療需要の減少が見込まれる中、現状の体制をどのように地域の医療ニーズに適合させるか検討が必要。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

療養病床を地域の医療ニーズに適合させ、地域に密着した医療を提供していく。
リハビリテーションを通じてご自宅への復帰を支援する一翼を担う。

② 今後持つべき病床機能

療養病床の再編、介護医療院について検討する。
病床数は一定程度維持する必要があるが、必要に応じて適正化を検討する。

③ その他見直すべき点

病床満床率は堅調なため、医療政策や今後の医療需要の推移を鑑みて、
地域に適正な医療を提供する施策を検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	37		37
休棟等			
(合計)			
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		37

2025年度は慢性期37床か介護医療院37床のいずれかにする予定

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

山口・防府医療圏 病床状況

病 院 名	所在市町	許可病床数 (H29年度)			病床数計	許可病床数 (H30.11.1)			病床数計	備考
		一般	医療療養	介護療養		一般	医療療養	介護療養		
【公的医療機関等】										
山口県立総合医療センター	防府市	490			490	490			490	その他 感染症 14床
山口赤十字病院	山口市	475			475	427			427	休棟病床 △48床
済生会山口総合病院	山口市	310			310	310			310	
小郡第一総合病院	山口市	182			182	182			182	
済生会湯田温泉病院	山口市		142		142		142		142	
計		1,457	142		1,599	1,409	142		1,551	△48
【その他の医療機関】										
防府リハビリテーション病院	防府市		362	50	412		362	50	412	
山口リハビリテーション病院	山口市		180		180		180		180	
山口若宮病院	山口市		173	56	229		173		173	介護療養 △56 老健施設を介護医療院へ
三田尻病院	防府市	144			144	144			144	
阿知須同仁病院	山口市	30	48	60	138	30	48		78	介護療養 △60 介護医療院へ H30.11.1～
阿知須共立病院	山口市	45	90		135	45	90		135	
防府胃腸病院	防府市	120			120	120			120	
桑陽病院	防府市	60	48		108	60	48		108	
山口博愛病院	防府市	53	45		98	53	45		98	
緑町三祐病院	防府市	32	54		86	32	54		86	
松本外科病院	防府市	80			80	80			80	
山口病院	山口市		51	28	79		51	28	79	
柴田病院	山口市	60			60	60			60	
佐々木外科病院	山口市	54			54	54			54	
林病院	山口市	20	30		50	20	30		50	
丘病院	山口市		29	8	37		29	8	37	
計		698	1,110	202	2,010	698	1,110	86	1,894	介護療養 △116
病院計		2,155	1,252	202	3,609	2,107	1,252	86	3,445	一般 △48 介護療養 △116

山口・防府医療圏 2025プラン

病院名	所在市町	許可病床数 (H30.11.1)		病床数計	病床機能報告 (左: 現況/右: 2025)						移行予定	備考					
		一般	介護療養 介護療養		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養等								
【公的医療機関等】																	
山口県立総合医療センター	防府市	490		490	490	275	275	156	156	59	59						
山口赤十字病院	山口市	427		427	427	155	119	272	189	0	44	0	25			回復期 地域包括ケア 慢性期 緩和ケア	
済生会山口総合病院	山口市	310		310	310	114	114	196	196								
小郡第一総合病院	山口市	182		182	182			137	137	45	45						
済生会湯田温泉病院	山口市		142	142	142						142	142					
計		1,409	142	1,551	1,551	544	508	761	678	104	148	142	167	0	0	0	0

病院名	所在市町	許可病床数 (H30.11.1)		病床数計	病床機能報告 (左: H30/右: 2025)						移行予定	備考					
		一般	医療療養 介護療養		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養等								
【その他の医療機関】																	
防府リハビリテーション病院	防府市		362	50	412					45	95	367	217			100	介護医療院へ移行予定
山口リハビリテーション病院	山口市		180		180					124	124	56	56				
山口若吉病院	山口市		173		173							173	173				介護医療院へ移行済
三田尻病院	防府市	144		144	144			94	94	50	50						
阿知須向仁病院	山口市	30	48	78	138			30	30	48	48	60	60			60	介護医療院へ移行済 H30.11.1~
阿知須共立病院	山口市	45	90	135	135			45	45	90	90						
防府胃腸病院	防府市	120		120	120			120	60	60	60						回復期 地域包括ケア
桑陽病院	防府市	60	48	108	108			60	60			48	48				
山口博愛病院	防府市	53	45	98	98			53	53			45	45				
緑町三祐病院	防府市	32	54	86	86			17	17	15	15	54	54				
松本外科病院	防府市	80		80	80			36	36	44	44						
山口病院	山口市		51	28	79							79	79				
柴田病院	山口市	60		60	60					60	60						
佐々木外科病院	山口市	54		54	54			44	44	10	10						
林病院	山口市	20	30	50	50			20	20			30	30				
丘病院	山口市		29	8	37							37	37				又は介護医療院へ移行
計		698	1,110	86	1,894	0	0	519	459	486	596	949	739	0	0	0	160
病院計		2,107	1,252	86	3,445	544	508	1,280	1,137	590	744	1,091	906	0	0	0	160